



4年ぶり、箱根への切符をつかみ取った拓殖大学!!

## 過酷な箱根に挑む選手たちを 影で支えるのは足湯&マハロ!

4年ぶり32回目の箱根駅伝出場を決めた拓殖大学陸上部。

これまであと一歩で箱根への道が閉ざされ、

悔しい思いをしてきたが、今年は違う!

この夏から取り入れ始めた冷え取りと海洋深層水  
マハロが選手たちをしっかりとサポートしている。



選手たちがつなげる  
たすき。たくさんの思  
いがつまっている

### 1秒差に泣いた一昨年から、 起死回生の箱根駅伝

拓殖大学は過去30回以上箱根駅伝に出場している名門校。毎年箱根駅伝を楽しみにしているOBも数多くいるという。

その拓殖大学、この2、3年、小差の勝負どころに苦しんできた。一昨年は、わずかに1秒差という小さいけれども、大きくのしかかる差に泣き、予選落ちという悔しい思いを味わった。

その苦しい道のりの末に、箱根駅伝出場のキップを勝ちとつ

た今年の予選会。昨年と今年の違いは何だったのか? 「OBによる後援会もでき、応援も力になりました。昨年、一昨年の悔しい思い、1秒の重みを痛感し、今年の目標が定まったとも言えます」。体づくりから徹底しなければいけないと感じ、選手たちの栄養面、体調管理の面から整えていくことを考えたという拓殖大学陸上部川内監督。プロテインや、鉄分のサプリメント、いろいろなものを試してきた結果、今年の夏に冷え取りとマハロにたどり着いた。





予選会で個人5位と健闘した伊藤太賀主将/4年(上)と、「箱根を走るのには、本当に楽しみ」と心強い小路優人副主将/4年(下)。2008年10月18日の予選会

悔しい思いをしてきた、主力の4年生に加え、新しい勢いのある1年生、結束力のあるチームになっている。



川内勝弘 かわうち・かつひろ

拓殖大学陸上競技部監督。代行監督から丸3年が経ち、チームの体制、勢いを整え、4年ぶりの箱根駅伝を遂に手にした。大学時代に4年間箱根駅伝を走り、数々の記録を持っているが、監督としては、初の箱根駅伝。これまで卒業していった選手たちの思いを継ぎ、箱根駅伝にチーム一丸となり、挑む。

PROFILE

## 冷え取りとマハロでの 体調管理が自信に繋がる!

今年の6月。高陽社見城特約店から冷え取りと海洋深層水マハロを紹介された。いろいろと体にいいものを探していた監督は、すぐに試したい!と導入。8月の北海道合宿にも足湯器、マハロを大量に持ち込み、合宿での体調管理を万全に、予選会に備えた。

「夏から飲むものはマハロだけ! 予選会のときも『これだけ飲め!』と言っていたんです。本当にスーッと体に入ってくるんですよ。夏の練習は貧血、脱水症状が出やすい。今年はマハロを飲んでいたせいか、脱水症状を起こす選手はあまりいなかった」と監督はいう。

足湯器は、常時使えるように、寮にも3〜5台用意。練習の前後に、使いたい人から自由に使用する。選手たちも「疲れ方が全然違う」「走るときに軽くなった」など、変化をしっかりと実感している。

「体力、精神力、走力ともにレベルアップしてきているのを結果として実感しています。箱根

は特にそうですが、勝負は何が起ころかわからない。箱根に出るからには優勝を目指します! 最低でもシード権獲得。もう予選会の苦しさは味わいたくないですから!」



足湯とマハロは選手たちになくてはならないものになっている。クラブハウストレーニングルームで